

●寺院の「報恩講」

全国の各寺院では一年に一度お勤めされます。本山の報恩講と同じ期日にお勤めする寺院では「御正忌」、本山の報恩講に先立ち9月から1月上旬頃にかけてお勤めする寺院では、「お引き上げ」や「お取り越し」と呼ぶことが多いようです。また、地域によっては、「ほんこさん」と呼んで親しまれています。

●本願寺の「報恩講」

本山本願寺においては、親鸞聖人の祥月命日にお勤めすることから「御正忌報恩講」といい、毎年1月9日から16日までお勤めします。



●築地本願寺・別院・教室の「報恩講」

東京の築地本願寺のほか、各地におけるお念仏の中心道場として別院、教室が全国に設置されており、通常、本山の報恩講に先立ち、9月から1月上旬頃にかけて「報恩講」をお勤めします。

●家庭の「報恩講」

浄土真宗の家庭ではもっとも大切なご法要です。子どもからお年寄りまで、家族や親戚と一緒に勤めし、親鸞聖人のみ教えを聞いて、ともに仏縁をいただいたことをよろこぶ機会といたしましょう。



●親鸞聖人のご生涯

1173年5月21日(承安3年4月1日)、京都・日野の里で誕生。9歳で得度。比叡山で20年間修行されたが、迷いや苦悩から逃れることができなかったため、山を下り、六角堂での救世観音の夢告により法然聖人の門弟となられる。35歳の時、専修念仏停止によって越後に流罪となり、39歳で赦免の後、妻・恵信さまや家族とともに関東へ移り、約20年間布教を行われた。1224年(元仁元年)に主著『顕浄土真実教行証文類(教行信証)』を撰述される。その後、京都に帰り著述活動を行われ、1263年1月16日(弘長2年11月28日)、90歳で示寂。

★報恩講の案内

の報恩講は

月 日 から
月 日 です。

皆さまそろってお参りください。

報恩講を
ご縁に



©2008 HONGWANJI

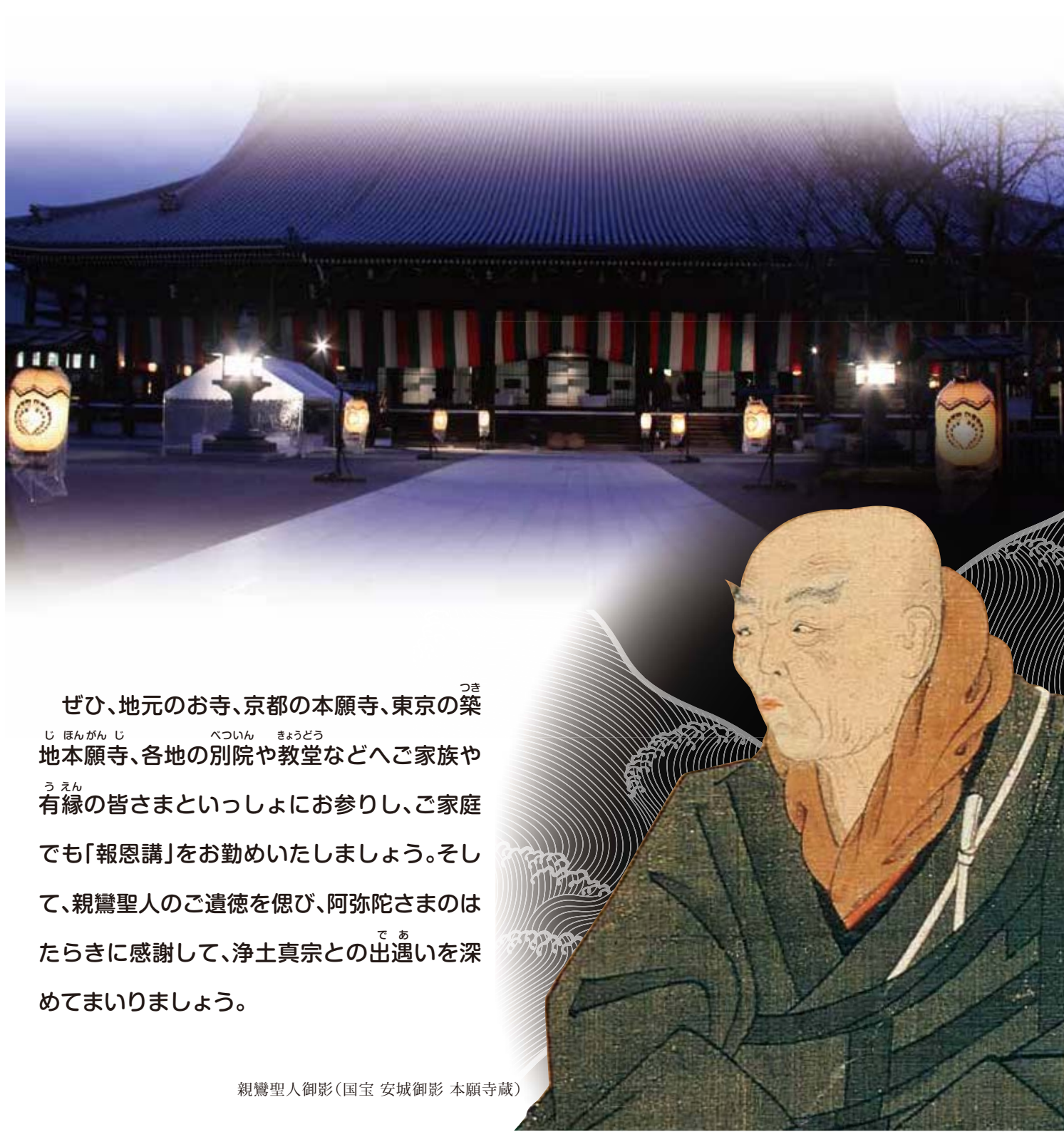
浄土真宗本願寺派

ほうおんこう 「報恩講」とは

ほうおんこう しょうど しんしゅう
「報恩講」は、浄土真宗のみ教えをいただく
しゅうそ しんらんしやうにん いとく の
私たちにとって、宗祖・親鸞聖人のご遺徳を偲
ぶ、一年でもっとも大切なご法要です。

あみだ
浄土真宗は、阿弥陀さまのあらゆる人びと
を救うはたらきによって信心をめぐまれ、お
ねんぶつ しんじん
念仏を申す人生を歩み、この世の縁が尽きる
えん
とき浄土に生まれて仏となり、迷いの世に還
ぶつ かえ
って人びとを教化するというみ教えです。こ
きょうけ
の真実のみ教えをお示しくださった親鸞聖人
に感謝し、阿弥陀さまのお救いをあらためて
心に深く味わわせていただくご法要が、「報恩
講」です。

「報恩講」という名称は、親鸞聖人のひ孫で
ほんがんじ かくによしやうにん かいき
ある本願寺第3代覚如上人が、聖人の33回忌
ほうおんこう しき
にあわせて『報恩講私記』を著されたことに由
来しています。以来、700年を超える歴史の
中で、せんじん めいにち
先人たちが親鸞聖人ご命日の法要を「報
恩講」として脈々と受け継ぎ、今日まで大切に
お勤めしてきました。



つぎ
ぜひ、地元のお寺、京都の本願寺、東京の築
じほんがんじ べついん きやうどう
地本願寺、各地の別院や教堂などへご家族や
うえん
有縁の皆さまといっしょにお参りし、ご家庭
でも「報恩講」をお勤めいたしましょう。そし
て、親鸞聖人のご遺徳を偲び、阿弥陀さまのは
たらきに感謝して、浄土真宗との出遇いを深
てあ
めてまいりましょう。